

ラブ文化のショーケースとして計画された建築で、博物館・図書館・展示場・資料センター・ホール・レストラン・ワークショップスペースによって構成されています。

この建築の最大の特徴は、南側のファサードでアラブ文化特有の幾何学模様のパターンで、カメラの絞り機能を応用したダイヤフラムが印象的です。

この南側のファサードは大、中、小の3種類のダイヤフラムのみで構成され、絞り・開放を調整して館内の明るさを調整する仕掛けになっており、この建築を訪れ実際に見ると、ダイヤグラムが建築のディテールとして、またファサードとして、十分に美しい造形だと感じさせてくれました。

中に入るとガラス越しに反射した絞りのファサードがきらきらと輝いているようで、繊細なメカニックの内部に潜入したかのような、不思議な感じでした。

南側は広い広場になっておりより繊細な・力強いファサードを感じ取れました。また、他のファサードや広場の床の構成が統一感があり好印象でした。屋上からセーヌ川を見渡せ、パリの景色が不思議な感じと気持ちよさを与えてくれました。

